防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第147号(2019. 6. 1)
事務局 川西地区自主防災会

これからの出水期に備えて、事前の準備と防災気象情報の活用を

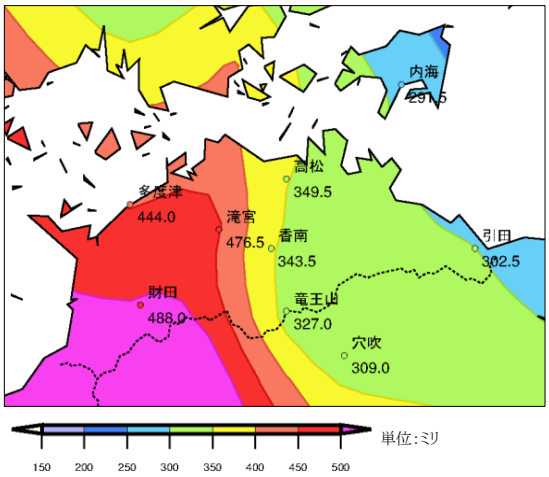
高松地方気象台防災管理官
山本善弘

1．平成30年７月豪雨を振り返って

平成30年６月28日から７月８日にかけて、日本付近に停滞した梅雨前線や台風第７号の影響で、７月５日から暖かく非常に湿った空気が継続して流れ込み、総降水量が多いところで1800ミリを超えるなど、西日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となりました。香川県においても、７月５日から８日を中心に大雨となり、三豊市財田では降り始めからの総降水量（６月29日08時から７月８日13時まで）が488.0ミリを観測し、また、７月１日から８日までの降水量は400．0ミリとなり、７月の月降水量第１位を上回る大雨となりました。

この大雨について、気象庁では岐阜県、京都府、兵庫県、岡山県、鳥取県、広島県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県の１府10県に大雨特別警報を発表し、最大級の警戒を呼びかけました。過去、経験したことがないような、広い範囲における長時間の記録的な大雨となったのが大きな特徴でした。

岡山県倉敷市真備町上空から見た浸水状況
（平成30年7日9日　気象台職員撮影）



香川県アメダス期間降水量
平成30年6月29日08時～7月8日13時）

2．これからの大雨、台風シーズンに備えて

６月から９月にかけては梅雨前線や秋雨前線が停滞して、しばしば大雨を降らせます。

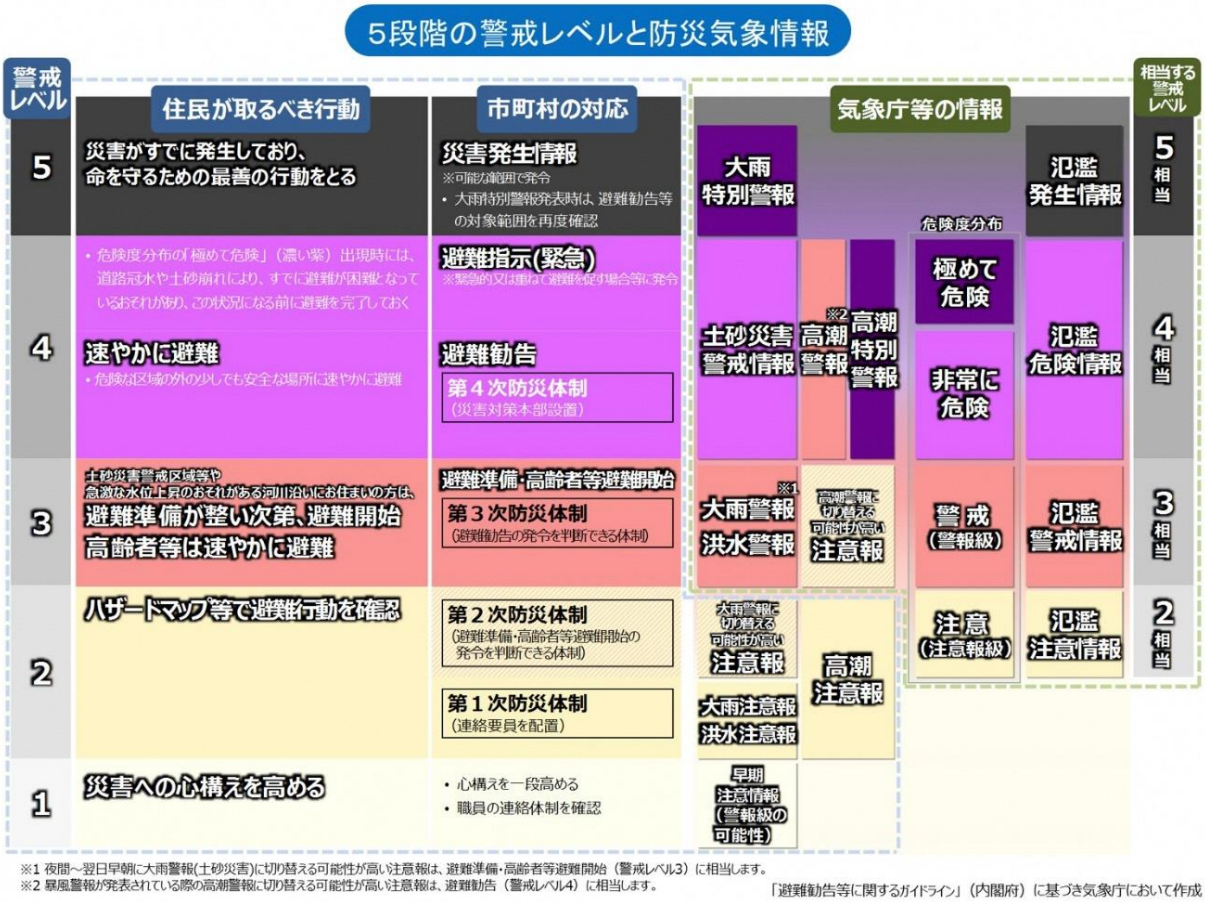
また、台風や前線を伴った低気圧が日本付近を通過するときも昨年の７月豪雨のように、広い範囲に大雨を降らせることがあります。特に、前線や低気圧等の影響や雨を降らせやすい地形の効果によって、積乱雲が同じ場所で次々と発生・発達を繰り返すことにより起きる集中豪雨では、激しい雨が数時間にわたって降り続くことがあります。毎年、こうした大雨によって河川の氾濫や土砂災害が発生しています。そのほ

か、暴風、高波、高潮等によっても災害が発生しています。

香川県は四国地方の中では比較的気象災害が少ない県と言われていますが、決して油断してはいけません。高松地方気象台では、このような気象災害を防止・軽減するために警報や気象情報などの防災気象情報を発表し、注意や警戒を呼びかけています。災害から身を守るためには、これらの防災気象情報を有効に活用することが重要です。

３．防災気象情報の活用

政府の中央防災会議においては、平成 30 年 7 月豪雨を教訓とし、避難対策の強化について検討され、平成 30 年 12 月に「平成 30 年 7 月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの報告のあり方について（報告）」がとりまとめられました。併せて地方公共団体が避難勧告等の発令基準や伝達方法を改善する際の参考となる「避難勧告等に関するガイドライン」（以下、「ガイドライン」）が改定されました。ガイドラインの主な変更点は、住民等が情報の意味を直感的に理解できるよう、防災情報を「5 段階の警戒レベル」により提供し、住民のみなさま等の避難行動等を支援することです。



図：5段階の警戒レベルと防災気象情報

一方、気象庁では平成 30 年度に外部有識者で構成される「防災気象情報の伝え方に関する検討会」を開催し、平成 31 年３月末に防災気象情報の伝え方の改善策と推進すべき取組についてとりまとめました。

ガイドラインの改定や検討会でのとりまとめを踏まえ、今後の本格的な出水期に備

え、令和元年５月 29 日より、土砂災害警戒情報や指定河川洪水予報に相当する警戒レベルを記載して発表しています。今後、気象庁ホームページの防災気象情報の凡例や解説に、警戒レベルに係る記述を追加するなどの改善をいたします。

危険度分布について

大雨時には、雨は地中に浸み込んで土砂災害を発生させたり、地表面に溜まって浸水害をもたらしたり、川に集まって増水することで洪水害を引き起こしたりします。気象庁では、このような雨水の挙動を模式化し、それぞれの災害リスクの高まりを表す指標（土壌雨量指数、表面雨量指数、流域雨量指数）を使い、大雨による土砂災害、浸水害、洪水害の危険度の高まりを面的に確認できる「危険度分布」を気象庁ホームページで提供しています。

警報・注意報が発表されたときに、実際にどこで警報・注意報の基準に到達すると予想されているのかが一目で分かり、防災行動をとるうえで役立つ情報です。

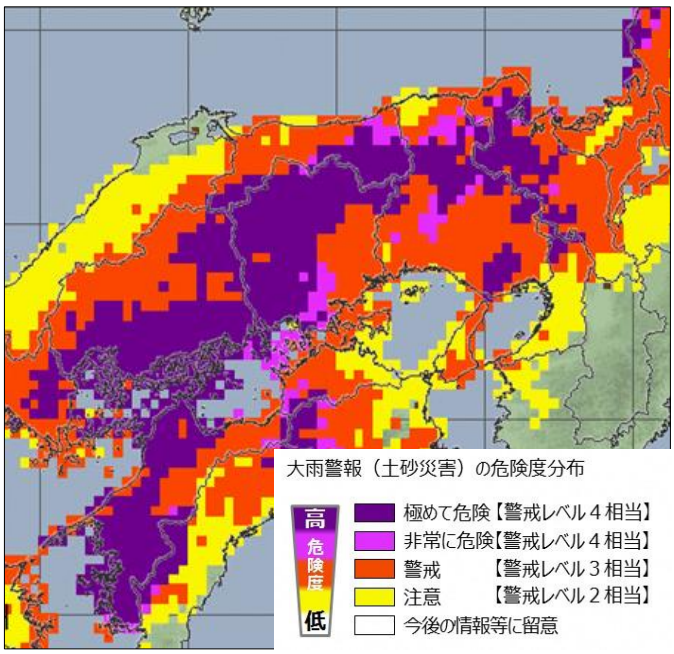
○気象庁ホームページ URL

危険度分布（土砂災害）　https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/index.html
危険度分布（浸水害）　https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/inund.html
危険度分布（洪水）　https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html

大雨警報（土砂災害）危険度分布

大雨による土砂災害発生の危険度の高まりを、地図上で５km 四方の領域（メッシュ）ごとに５段階に色分けして示す情報です。

常時 10 分毎に更新しており、大雨警報（土砂災害）や土砂災害警戒情報等が発表されたときには、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。



図：大雨警報（土砂災害）の危険度分布

大雨警報（浸水害）危険度分布

１時間先までの雨量予測を用いた表面雨量指数の予測値が大雨警報（浸水害）等の基準に到達したかどうかを地図上に５段階で色分け表示した「大雨警報（浸水害）の危険度分布」を提供しています。

これにより、実際にどこで浸水害発生の危険度が高まっているのかが一目で確認できます。

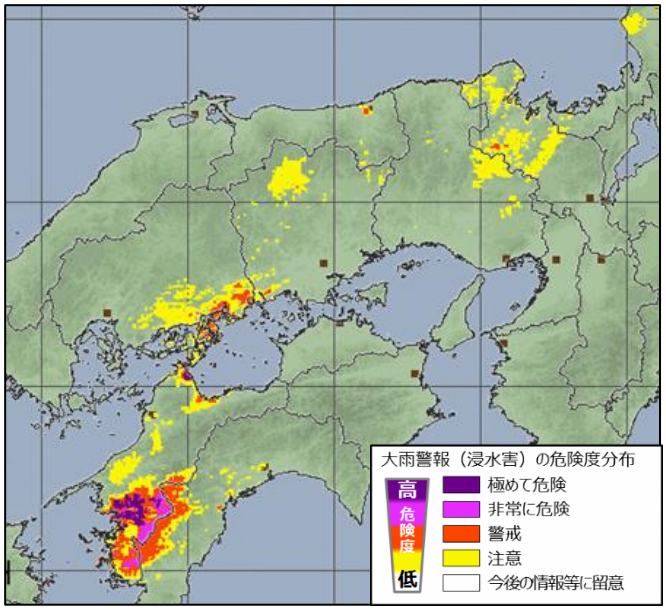


図:大雨警報(浸水害)の危険度分布

洪水警報の危険度分布

３時間先までの雨量予測を用いた流域雨量指数の予測値が洪水警報等の基準に到達したかどうかを地図上に５段階で色分け表示した「洪水警報の危険度分布」を提供しています。

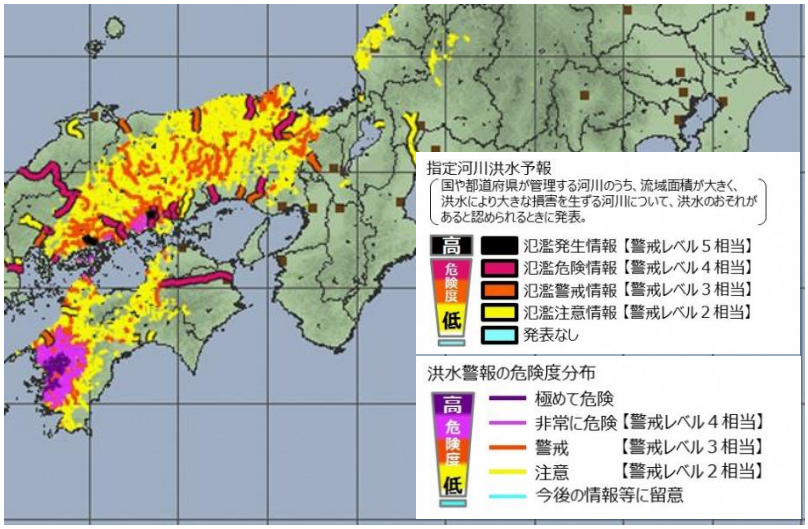


図:洪水警報の危険度分布

これにより、指定河川洪水予報の発表対象ではない中小河川（水位周知河川及びその他河川）における急激な増水による危険度の高まりも数時間前から確認できるようになるなど、早い段階から雨量予測に基づき個々の中小河川において予測される洪水害発生の危険度の高まりを一目で確認できます。

高松地方気象台が危険度の高まりに応じて段階的に発表する防災気象情報と、「５段階の警戒レベルと防災気象情報」、そして「危険度分布」を確認していただき、「早めの準備」、「早めの行動」を心がけてください。

また、スマートフォンからも情報が入手できます。以下のトップ画面の「危険度分布」バナーを選択し、表示画面例を参考に、防災対応や避難行動の際に、活用ください。

左：気象庁HPトップ画面　　中央：大雨警報（土砂災害）危険度分布　　右：各種メニュー一覧画

４．防災気象情報の改善「台風に関する強度予報の延長」について

気象庁は、台風に関する強度予報をこれまでの３日先までから５日先までに延長し、平成 31 年 3 月 14 日から、台風の進路・強度ともに５日先までの予報を発表することになりました。

台風接近時の早めの準備や防災行動計画などに役立ててください。

図：気象庁ホームページのイメージ

５．最後に

日々の天気予報で「大気の状態が不安定になっており、雷を伴って局地的に大雨となるおそれがあります」といった言葉を使うときがあります。また、ニュースなどで「高松地方気象台では、〇〇に関する（気象）情報を出して警戒を呼びかけています」という言葉が流れることがあります。高松地方気象台では、警報・注意報に先立って天気予報の中で注意・警戒を呼びかけたり、警報・注意報の発表中に現象の経過、予想、防災上の留意点等を解説したりするために「気象情報」という情報を発表しています。

このように、まだ大雨等の現象が起こるかなり前から注意喚起の情報をお知らせしていますので、警報・注意報等とともに、日々の天気予報やニュースをチェックいただき、日頃から天気の変化に気をつけてください。

まもなく、大雨シーズンに入ります。防災気象情報を上手に活用いただき、「防災・減災」に役立てていただければと思います。

なお、参考資料として、「自分で行う災害への備え」について掲載していますので、活用ください。

参考：「自分で行う災害への備え」

家の外の備え	大雨が降る前、風が強くなる前に行いましょう。 ・窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、必要に応じて補強する。 ・側溝や排水口は掃除して水はけを良くしておく。 ・風で飛ばされそうな物は飛ばないよう固定したり、家の中へ格納する。
家の中の備え	・非常用品の確認 懐中電灯、携帯用ラジオ（乾電池）、救急薬品、衣類、非常用食品、携帯ボンベ式コンロ、貴重品など ・室内からの安全対策 飛散防止フィルムなどを窓ガラスに貼ったり、万一の飛来物の飛び込みに備えてカーテンやブラインドをおろしておく。 ・水の確保 断水に備えて飲料水を確保するほか、浴槽に水を張るなどして生活用水を確保しておく。
避難場所の確認など	・学校や公民館など、避難場所として指定されている場所への避難経路を確認しておく。 ・普段から家族で避難場所や連絡方法などを話し合っておく。 ・避難するときは、持ち物を最小限にして、両手が使えるようにしておく。
非常持ち出し品の用意	以下は非常持ち出し品の一例です。 ・リュックサック ・飲料水、乾パンやクラッカーなど、レトルト食品、缶詰、粉ミルク、哺乳ビンなど ・救急医薬品、常備薬、マスク、紙おむつ、生理用品 ・現金（小銭も）、預金通帳など、印鑑、健康保険証など、身分証明書 ・下着、タオル、寝袋、雨具、軍手、靴 ・ナイフ、缶切、鍋や水筒、懐中電灯、ラジオ、電池、ロープ、マッチやライター、使い捨てのカイロ、ティッシュなど、筆記用具、ごみ袋 ・防災頭巾やヘルメット、予備の眼鏡など、地図

事務局だより

令和元年　6月

先月より令和がスタートしました。改めてよろしくお願いいたします。

避難所生活者を医学的検知（診療）で体験した事

3 年の歳月が流れた熊本地震、災害関連死が異常に多く発生した事は皆さんご存知だと思いますが、

一般的には、

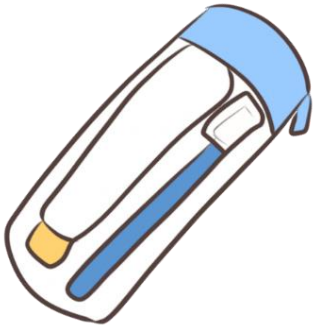
①劣悪なトイレ環境

②非常食が続いた事による食環境

③整備不足による住環境の悪さ

以上 3 点については、1995.1.17 の阪神・淡路以降何時も話題になっているところですが、熊本地震被害で医療を担当した医者のお話しの中で興味を引く発言がありましたので紹介しておきたいと思います。

「避難生活者は水分不足や運動不足で体調が不安定なうえに、口腔衛生の管理が全くなされていない事に気づいた。非常持出袋や手さげ袋の中に歯ブラシを入れていない人がほとんどであった。
十分なうがい水が無くても、歯ブラシで 1 日 2～3 回、口の中をブラッシング、その後ティシュ、ハンカチなどで口の中をふいておく。
これだけで十分な健康管理ができますと。特に朝食前のブラッシングは命を守る大切な事である。」
以上のことについて、テレビ番組でお話しをされていました。



私もその後、朝ふとんから出ると必ず歯ブラシによって入念なブラッシングと 4～5 回のうがいを実行して、朝食をとることにしています。
体内に入るすべてのバイキンは口から入ります。
このことから口の中で処理して体内に入らないように心がけましょう。

自治会加入促進ニュース

共助の基盤をキチンと強固にしていくには、自治会や町内会の加入率を向上させることは、常とうの手段であります。

丸亀市川西地区 4 月～5 月の結果を報告しますと、

4 月　**30 件**　の純増（一般住宅より）

5 月　**27 件**　の純増（一般住宅・賃貸住宅）

加入率 53%超

5 月の中旬から初めて賃貸住宅にも訪問活動を展開。7～8 件の加入となっています。
＜参考　川西地区　世帯数 2700 戸＞

編集後記

今月の防災減災の輪は、高松地方気象台 防災管理官 山本様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。